

Q 高すぎる国保税の均等割・平等割の引き下げを

A 国保財政は赤字のため、引き下げる考えはない

鈴木 三男

Q 深谷市は、平成27・28年度の2年間に国保税を6億円引き上げた。国保の加入者は、いざ病気になるって困らないようにと必死で国保税を払っている。せめて低所得者対策から、2年間に引き上げた均等割・平等割を引き下げるべきだ。

A 引き上げに対し、今年の7・8月にかけて680件の問い合わせがあった。今回の引き上げは、県内平均にするもの。それでも赤字だ。既に、低所得者世帯の軽減措置がある中で、引き下げは考えていない。

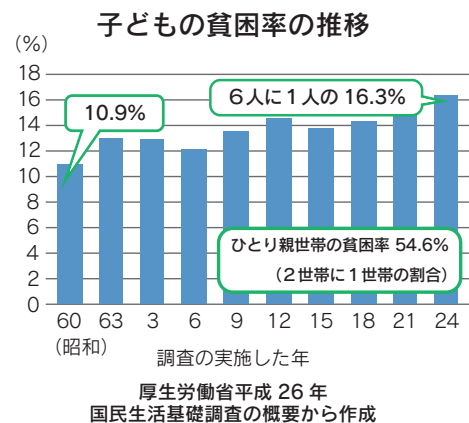
――**子どもの貧困対策の推進を**――
Q 子どもの貧困率は16・3%、6人に1人が貧困になっている。市の子どもの貧困対策はどのようになっているのか。

A 市における貧困率は、把握していないが、「深谷市子ども・子育て支援事業計画」による支援やひとり親家庭への支援として、児童扶養手当・医療費の支給、資格取得の職業訓練促進等就労支援を行っている。総合的な貧困対策として、教育支援、

生活支援、就労支援、経済支援を各担当が調整して実施していく。

――**子ども医療費無料化を**――
Q 深谷市の子どもの医療費は、中学卒業まで無料になったが、高校卒業まで無料にする考えはないか。

A 高校卒業までの無料化は、寄居町、東秩父村を含めて市町村。熊谷市、長瀨・横瀬・皆野・小鹿野町で予定している。深谷市は予定がない。



Q 深谷市「コミュニティ・スクール」の全小中学校への指定状況は

A 現在19校まで指定が進んでいる

三田部 恒明

Q 本年度中、全小中学校指定を目指す「コミュニティ・スクール(CS)」の概念をどう考えているか。

A CSとは学校運営協議会を設置した学校であり、学校・家庭・地域が協議を行い、地域総がかりで質の高い教育を作り上げることで、「学校が地域社会のエンジン」となることを目指している。

Q 深谷市CSの特筆すべき特徴は。
A 洪沢栄一翁の精神を受け継ぎ、「夢をこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」と掲げている。地域の力を取り入れての学力向上、キャリア教育の推進、安心・安全なまちづくりに向けての交通安全や防災教育など、学校・地域の特色を生かして取り組んでいく。

Q 学校運営協議会が持つ権能とは。
A 協議会は、校長の示す学校運営の基本方針を承認し、教育活動について意見を述べる合議制の組織であり、一定の権限と責任を有する。



若者会議のようす (岡山県笠岡市の取り組み)

――**子ども・若者育成支援推進法**――

Q 推進法については2月に見直され、新たな大綱が作成された。若者対策に取り組む必要があり、まずは若者会議の企画立案、審議会等における若者の登用などを提案したい。

A 次の世代を担う若者が市政に対する関心を持つという取り組みの必要性は大事であり、審議会委員への若者の登用やワークショップへの参加など若者の意見を市政に反映できるように努め、若者会議の取り組み等、今後、研究していく。

Q サイクリングロードについて

A 県へ提案書の提出に向け、検討している

茂木 一郎

Q 小山川の深谷地域の堤防天端の自転車道の設置について。

A 埼玉県では市町村の地域振興策として、「川の再生を目指す「川の国埼玉」はつつプロジェクト」を立ち上げた。市は埼玉県と協働して事業を進めることとなり、県は計画の一部として河川区域内のハード整備を行う。また、市や地域住民は連携して、整備したものを利活用し、イベント開催および川辺の清掃等を行う。本市においても、このプロジェクトを活用すべく提案書の提出に向け、検討をしている。

Q 提案の詳細は。

A 市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の観点からまちの魅力を発信する中で洪沢栄一翁をはじめとする郷土の偉人を顕彰し、市への集客を図る。市の産業計画の観点から「にぎわいを生む観光の振興」の中で、北部振興センター協力・指導のもと広域観光ルートの整備を行う。また、「日本一の道の駅」として「道の駅おかべ」の機能向上を目指す。市の都



小山川 新明橋付近

市計画マスタープランでは、自転車・歩行者ネットワークの整備方針の中で安全で人にやさしい歩行者空間の整備に基づく自転車ネットワークに位置付け、基盤整備により、「都市・田園・文化が織りなすまちづくり」を目指す。

Q 福川の堤防天端の舗装計画は。
A 市の都市計画マスタープランに位置付けはない、県にも問い合わせたが管理道路の舗装の予定はない。

Q 古いレンガを使った建物を保存する考えはあるのか

A 深谷市レンガのまちづくり条例の対象ではない

村川 徳浩

Q 本物のレンガを使ったものとしてレンガ調タイルを使用したものでは、見た目も質感も明らかに別物だと感じるが、レンガ調タイルを使用した建築物が、レンガの街としての深谷市の景観にプラスに作用するのか。

A 市民アンケートでは、約8割の方から積極的にPRすべきとの回答を得ている。

Q 深谷産の古いレンガを使った建物に対し保存する努力をした上で、この条例があるのならばまだ理解できるが、それをしないでレンガ調タイルを使った建築物に対し、奨励金を出すということになると、深谷市の姿勢が問われるのではないか。

A 既存レンガの建築物は、歴史的背景を考えると大変貴重であると認識しているが、この条例は景観に配慮したレンガの街づくりを市民と共に推進することを目的としたものであることを理解いただきたい。

Q 今回の条例改正で対象区域が限定されるが、その区域内の過去の実績を考えると利用者がいなくなるの

ではないか。

A 外構工事も補助対象になるので、利用が増える可能性もある。

Q ふるさと納税で寄附金の使い道として、古いレンガを使った市内に残る建造物を保存するために使うという選択肢を作ってはどうか。

A すでに東京駅などのレンガを焼いた国指定重要文化財ホフマン輪窯の保存整備という項目がある。今後、必要があれば検討していきたい。



大正元年建造 塚本商店